

頌栄

No. 102

日本キリスト教団 頌栄教会

〒155-0031

世田谷区北沢 1-42-10

Tel 03-3467-3664

Fax 03-3467-8332



神の霊によって一つとされて

牧師 清弘 剛生

すると、一同は聖霊に満たされ、
「**霊**」が語らせるままに、ほか
の国々の言葉で話し出した。

使徒言行録二・四

毎年、聖霊降臨祭において
読まれる聖書箇所です。この
箇所との関連で思い起こされ
るのは、旧約聖書に記されて
いるバベルの塔の物語です。
人々は言いました。「さあ、天
まで届く塔のある町を建て、
有名になろう」（創世記一一・
四）。しかし、神は彼らの言葉
を混乱させ、互いに聞き分け
られないようにし、彼らを全
地に散らされたのでした。彼
らが建てようとした町は「バ
ベル」と呼ばれました。バベル
という言葉は、混乱（バラル）

という言葉に由来すると創世
記は説明しています。

今、全世界はまさにバラル
の中にあります。教会もまた、
その中であって、ある意味で
は「散らされる」ことを経験し
ています。それはあのバベル
の出来事がそうであったよう
に、私たち人間のこれまでの
あり方、教会のこれまでのあ
り方が神から問われている出
来事であると言えるのでしょ
う。しかし、そのようなバラル
の中で私たちは今年もペンテ
コステを迎えます。この状況
の中でこの御言葉が与えられ
ているのです。そこに神の憐
れみがあり、私たちの希望が
あるのです。

あの五旬祭の日には、バベルの塔の出来事とまったく逆のことが起こりました。彼らは突然、異なった言葉を話し始めます。しかし、彼らはバラルの中にはいません。彼らは異なる言葉をもって語りながらも、皆共に「神の偉大な業」（使徒二・一二）を語っていたのです。そのように、彼らは神の霊に満たされて、共に神に思いを向けることにおいて、一つとされていたのです。

今、世界中の教会がメデアの力とテクノロジーによって教会員同士の互いの結びつきを保とうと苦心しているように見えます。しかし、本当に必要なのは「散らされた」私たちのあり方を悔い改め、皆が真に神に立ち帰り、神に祈り、神の霊によって結ばれて一つとなることを求めることではないでしょうか。